

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H03932

研究課題名(和文)造血器悪性腫瘍患者を対象とする質問促進プログラムの開発と有用性の検証

研究課題名(英文) Development and validation of a question prompt program for patients with hematological malignancies

研究代表者

白井 由紀 (Shirai, Yuki)

京都大学・医学研究科・准教授

研究者番号：30587382

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,300,000円

研究成果の概要(和文)：造血器悪性腫瘍特異的QPLの開発と質問促進プログラムの検討を目的にインタビューデータの解析およびWEB質問紙調査を実施した。WEB調査では造血器悪性腫瘍患者324名から回答を得た。QPL案102項目中、回答者の80%以上が「重要」と回答した70項目に加え対象者背景ごとの意向を検討して造血器悪性腫瘍特異的QPLを確定する。また、80%以上が診断時と初発治療中のQPL配布を希望していたことから、初発時の介入を視野に質問促進プログラムの検討を進める。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、病態や治療の複雑さから困難とされてきた造血器悪性腫瘍患者・家族の意思決定支援のためのプログラム開発を目的とした点が最大の特徴である。現行のコミュニケーション促進プログラムのほとんどが固形悪性腫瘍患者を対象としており、国内で造血器悪性腫瘍に特化したプログラムが無いなかで、造血器悪性腫瘍患者の意向に基づいた意思決定支援プログラムを開発することは、学術的意義および社会的意義の高い試みと考える。

研究成果の概要(英文)：We aimed to develop a Question prompt list (QPL) specific to hematological malignancies and to examine the QPL program. 324 patients with hematological malignancies responded to the web-based survey. 70 of the 102 proposed QPL items, which more than 80% of respondents answered as "important," were added to the list of QPL. In addition, we will examine associations between the respondents' background (e.g., sex, age, disease) and responses to proposed QPL items to establish a hematological malignancies-specific QPL. Since more than 80% of the respondents wanted the QPL distributed at the time of diagnosis and during initial treatment, we will consider to offer the QPL program at the time of the initial diagnosis.

研究分野：医歯薬学

キーワード：がん 造血器悪性腫瘍 コミュニケーション 意思決定 質問促進リスト 質問促進プログラム

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

白血病や悪性リンパ腫などの造血器悪性腫瘍は、病態が複雑で治療の選択肢も多岐に渡ることから、患者は意思決定に困難を抱えている。造血器悪性腫瘍患者に対する情報提供や意思決定支援の不十分さが国内外の研究で明らかにされており、意思決定支援の具体的方策の検討が必要と考えた。意思決定支援を目的としたコミュニケーション促進プログラムの一つに、質問促進リスト (Question Prompt List: QPL) がある。QPL は患者が治療や今後の方針を医療者と話し合う際に自らの考えや質問を整理し、面談時に質問をしながら話し合いの内容を理解するための質問リストである。国内外の先行研究では、QPL 介入の有効性が明らかとなっており、今回、造血器悪性腫瘍の病態や治療の特徴と造血器悪性腫瘍患者のニーズを反映した QPL の開発と支援策を検討することとした。

2. 研究の目的

研究開始当初の目的は、造血器悪性腫瘍患者を対象とした疾患特異的 QPL と質問促進プログラムの開発および有用性検証であった。しかし、2020 年から COVID-19 感染拡大下での研究実施となり、対象、方法、スケジュールの修正を重ね、「造血器悪性腫瘍特異的 QPL の開発と質問促進プログラムの検討」を目的に調査を実施した。

3. 研究の方法

(1) 造血器悪性腫瘍特異的 QPL 案の作成と質問促進プログラム検討のための既存インタビューデータ解析

日本の造血器悪性腫瘍患者の意向を反映した QPL および質問促進プログラムを開発するため、意思決定場面の特徴や問題、意思決定に関して医療者が実践しているケアを明らかにすることを目的に、日本の造血器悪性腫瘍患者をケアする看護師 10 名を対象としたインタビューデータ (研究代表者が過去に実施したもの) について、意思決定に注目した質的内容分析を実施した。さらに、医師を対象としたインタビューデータ (研究代表者が過去に実施したもの) についても、意思決定場面に注目した見直しを行い、これらの結果および先行研究をもとに、造血器悪性腫瘍特異的 QPL 素案の作成および質問促進プログラムの検討を実施した。さらに、造血器悪性腫瘍特異的 QPL 素案について、血液内科医 5 名、看護師 5 名を対象に内容妥当性、表面妥当性、追加項目を確認し、造血器悪性腫瘍特異的 QPL 案を作成した。

(2) 造血器悪性腫瘍特異的 QPL の開発と質問促進プログラムの検討 (WEB 質問紙調査)

京都大学医の倫理委員会の承認を得たのち、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群の患者を対象とした WEB 調査を実施した (2022 年 11 月 ~ 12 月)。

4. 研究成果

(1) 内容分析の結果、意思決定する患者を支えるために看護師が実施しているケアとして、8 つのカテゴリが抽出された。カテゴリは順に、1. 信頼関係の構築とタイムリーで話しやすい関わり、2. 支持的な関わり、3. 血液疾患の特徴を踏まえたうえでの、患者の意向に対する具体的支援の提示、4. 支持的な態度での情報や意見の提供、5. 中立的な立場からの患者の思いの代弁、6. 患者の意思を尊重した日々のケア実践、7. 積極的な気分転換と生活リズムの調整、8. 患者が現状を正しくとらえ、今後を考えるきっかけづくり、であった。厳しい意思決定に直面する患者に対し、看護師が患者のニーズや背景にある思い・価値観を見出す重要性が示唆された。その

ために、看護師は支持的で中立的な立場をとりつつ、病状の経過を予測し患者の気づきに働きかけたり、血液疾患の特徴を踏まえて具体的支援を提示したりすることが重要と考えられた。さらに、血液内科医のインタビューデータの内容分析からも、意思決定場面における血液内科医の役割のカテゴリが抽出された。これらの結果から、質問促進プログラムのなかで、患者の意思決定を支える看護師、医師がとるべきスタンスが示された。また、インタビューデータの分析結果と先行研究から作成した造血器悪性腫瘍特異的 QPL 素案（83 項目）につき、医師・看護師を対象に内容妥当性、表面妥当性、追加項目を確認し、最終的に 102 項目からなる「造血器悪性腫瘍特異的 QPL 案」を作成した。

(2) 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群の患者 324 名から回答を得た（最終回収率 55.4%）。回答者の平均年齢は 51.7 ± 15.1 歳、男性が 226 名(69.8%)であった。治療経験者は 273 名(84.3%)であった。造血器悪性腫瘍特異的 QPL 案 102 項目のうち、治療経験者の 80%以上が重要と回答した項目は 75 項目あった。そのなかでも、治療経験者の 90%以上が重要と答えた項目は、「病期について」「治療法について」「合併症・副作用について」「将来起こりうる症状とその治療・対処法について」「費用、治療中の生活について」であった。この結果から、意思決定の際は、病気や治療に関するだけでなく、将来的な問題や経済的な問題、日常生活についても質問したいというニーズがあることが明らかとなった。

未治療者も含む 324 名の回答について検討したところ、造血器悪性腫瘍特異的 QPL 案 102 項目のうち、80%以上が「重要」と回答した項目は 70 項目あった。この 70 項目を造血器悪性腫瘍特異的 QPL の基本項目としたうえで、さらに対象者背景（治療経験、疾患、性、年齢、家族形態、職など）ごとの意向も検討したうえで、造血器悪性腫瘍特異的 QPL を確定する。また、QPL の配布時期について、80%以上が診断時と初発治療中の配布を希望していた。本研究結果をもとに、患者の意向に基づいた造血器悪性腫瘍特異的 QPL を用いた質問促進プログラムの確定、有用性の確認を今後行っていく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 11件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Morikawa Miharuru, Shirai Yuki	4. 巻 29
2. 論文標題 Qualitative Analysis of the Roles of Physicians and Nurses in Providing Decision Support to Patients With Relapsed or Refractory Leukemia and Lymphoma	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cancer Control	6. 最初と最後の頁 1~9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/10732748221131003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Sato Ayako, Fujimori Maiko, Shirai Yuki, Umezawa Shino, Mori Masanori, Jinno Sayaka, Umehashi Mihoto, Okamura Masako, Okusaka Takuji, Majima Yoshiyuki, Miyake Satoshi, Uchitomi Yosuke	4. 巻 20
2. 論文標題 Assessing the need for a question prompt list that encourages end-of-life discussions between patients with advanced cancer and their physicians: A focus group interview study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Palliative and Supportive Care	6. 最初と最後の頁 564~569
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S1478951521001796	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Matsuoka Ayumu, Fujimori Maiko, Narikazu Boku, Takashima Atsuo, Okusaka Takuji, Mori Keita, Akechi Tatsuo, Shimazu Taichi, Okizaki Ayumi, Miyaji Tempei, Majima Yoshiyuki, Nagashima Fumio, Uchitomi Yosuke	4. 巻 12
2. 論文標題 Geriatric assessment and management with question prompt list using a web-based application for elderly patients with cancer (MAPLE) to communicate ageing-related concerns: J-SUPPORT 2101 study protocol for a multicentre, parallel group, randomised controlled trial	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e063445
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1136/bmjopen-2022-063445	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 白井由紀
2. 発表標題 シンポジウム10 ガイドライン：コミュニケーション
3. 学会等名 第35回日本サイコオンコロジー学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤森麻衣子
2. 発表標題 J-SUPPORT企画2 進行膵がん患者へのACP促進の複合介入
3. 学会等名 第35回日本サイコオンコロジー学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shirai Y, Kondo M, Morikawa M.
2. 発表標題 Qualitative analysis of nurses' role in decision support for patients with relapsed or refractory leukemia and malignant lymphoma
3. 学会等名 The 17th World Congress of the European Association for Palliative Care (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 白井由紀, 近藤めぐみ, 森川みはる
2. 発表標題 再発・治療抵抗性の造血器悪性腫瘍患者を支えるケア：意思決定する患者に看護師が担う役割とは
3. 学会等名 第26回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 白井由紀, 近藤めぐみ, 森川みはる
2. 発表標題 再発・治療抵抗性の造血器悪性腫瘍患者の意思決定を支えるケア：多職種連携において看護師が担う役割とは
3. 学会等名 第34回日本サイコオンコロジー学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 白井由紀
2. 発表標題 がん治療とコミュニケーションスキル
3. 学会等名 第57回日本癌治療学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井由紀
2. 発表標題 サイコオンコロジー：がん治療の進歩によって患者・医療者間のコミュニケーションは変化したのか
3. 学会等名 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤森麻衣子
2. 発表標題 コミュニケーション・スキルを科学する
3. 学会等名 第57回日本癌治療学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤森麻衣子
2. 発表標題 サイコオンコロジー：がん治療の進歩によって患者・医療者間のコミュニケーションは変化したのか
3. 学会等名 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内富庸介
2. 発表標題 エビデンスに基づくコミュニケーション:心の声を聴く
3. 学会等名 第24回日本緩和医療学会学術大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内富庸介
2. 発表標題 がんの心のケア
3. 学会等名 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内富庸介
2. 発表標題 がん予防から終末期におけるコミュニケーションスキル
3. 学会等名 第57回日本癌治療学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 日本サイコオンコロジー学会、日本がんサポーターブケア学会 分担執筆：白井由紀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金原出版	5. 総ページ数 160
3. 書名 がん医療における患者-医療者間のコミュニケーションガイドライン 2022年版	

1. 著者名 宮下 光令、森田 達也、高橋 理智 分担執筆：白井由紀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 メディカ出版	5. 総ページ数 368
3. 書名 成人看護学(6)：緩和ケア 第3版	

1. 著者名 白井由紀(分担執筆)他、宮下 光令(編集)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 メディカ出版	5. 総ページ数 368
3. 書名 ナーシング・グラフィカ成人看護学 緩和ケア(第3版)	

1. 著者名 日本緩和医療学会(白井由紀 第 章分担執筆)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 468
3. 書名 専門家をめざす人のための緩和医療学(改訂第2版)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤森 麻衣子 (Fujimori Maiko) (40450572)	国立研究開発法人国立がん研究センター・社会と健康研究センター・室長 (82606)	
研究分担者	内富 庸介 (Uchitomi Yosuke) (60243565)	国立研究開発法人国立がん研究センター・中央病院・部門長 (82606)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関